

新・登録資料をご紹介します

カリ球（加里球）

寄贈：有限会社古川理工



ドイツの化学者リービッヒが開発した実験器具です。19世紀の中ごろに発明され、有機物の炭素量を調べるのに使われました。下の3つの球の中に水酸化カリウム水溶液を入れ、有機物を燃焼させたガスをこのガラス管に送り、水酸化カリウムが吸収した二酸化炭素量から、炭素の含有量を知ることができます。当時、この分析実験がカリ球により、1/20の時間で行えるようになりました。現在は、ほとんど存在しないため、新たに製造したものです。小野 昌弘（学芸員）

8mm映写機

寄贈：藤原 徹也 氏



1965年にキャノンから発売された「シネスターP-8」と呼ばれる8mm映写機です。

今ではビデオカメラで手軽に動画を記録できますが、かつて動く映像を記録する手段といえば映画でした。商業映画のフィルムが35mm幅であるのに対して、個人でも使用可能な8mm幅のフィルムが昭和30年代頃から使われ始めました。撮影した映像は、こうした映写機で映して鑑賞しました。

江越 航（学芸員）

日照計



日照を測る装置のひとつで、太陽電池式日照計といいます。ガラス円筒の内部に太陽電池が取り付けられており、ここに日光が当たると電圧が生じて、日照があることがわかります。太陽の光が雲などに遮られず、 0.12kW/m^2 以上で直接照らしているとき、「日照あり」となります。日照計は、気象庁が設置しているアメダス観測所のうち約840か所にあり、天気などを把握するのに役立っています。西岡 里織（学芸員）